

平成22年10月29日

日清製粉グループ 第2四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第2四半期は売上高2,091億61百万円、経常利益136億91百万円。

[平成23年3月期第2四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 村上 一平）の平成23年3月期第2四半期連結累計期間につきましては、急激な円高の進行や深刻な雇用情勢およびデフレの継続など厳しい市場環境下において、新製品の開発・販売に注力し、積極的な販促活動等による出荷拡大施策を実行するとともに、引き続き製造・物流全般におけるコスト削減に取り組みました。そのような中、本年4月に輸入小麦の政府売渡価格が5銘柄平均で5%引き下げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

また、昨年4月にスタートしました経営計画「日清製粉グループ行動計画 GO, 2010」につきましては、各事業において目標達成に向けた取組みを着実に進めております。

この結果、第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は製粉事業の出荷伸長はあったものの、輸入小麦の政府売渡価格引き下げによる製品価格改定の影響もあり2,091億61百万円（前年同期比92.2%）と減収となりました。利益面では、加工食品事業及び酵母・バイオ事業における出荷増加やメッシュクロス事業の収益回復等により、営業利益は123億84百万円（前年同期比101.7%）、経常利益は136億91百万円（前年同期比100.2%）、四半期純利益は69億33百万円（前年同期比82.8%）となりました。

なお、当社は連結子会社である、オリエンタル酵母工業㈱及び㈱NBCメッシュテックにつきまして、当社グループ全体として効率的且つ最適なグループ経営を実践し、長期的な企業価値の更なる向上を図るため、当社の100%子会社とすることを目的として、公開買付けを実施いたしました。今後、会社法に基づく一連の手続きにより、両社の発行済み株式の全てを取得する予定です。

[平成23年3月期通期連結業績予想]

第2四半期連結累計期間は、業績が順調に推移いたしましたが、第2四半期連結会計期間（7～9月）は猛暑の影響もあり減益に転じるなど、収益環境は厳しさを増しております。今後につきましては、引き続き高水準の失業率及びデフレ圧力の継続が見込まれ、個人消費の低迷が継続することが予想されます。また、国際相場の動向が不透明なため、各種原材料の価格やふすま価格について予断を許さない状況であり、当社各事業についても厳しい環境が続くものと思われます。

当社はこのような状況におきまして、各事業で積極的な広告宣伝を始めとする販促活動を強力に推進し、出荷拡大に努めてまいります。また、ナショナルブランドメーカーとして、消費者の皆様にとって価値のある製品を開発するため、研究開発に注力するとともに、当社グループの持続的な成長を実現するため、国内における新規事業開発に積極的に取り組んでまいります。海外事業に関しましても、引き続き既存事業の拡大を強力に推進するとともに、新規事業の実現に取り組んでまいります。

以上の状況及び第2四半期連結累計期間までに発生した特別損益を反映して、当年度の連結業績見通しにつきましては、売上高4,250億円（前期比95.8%）、営業利益は246億円（前期比92.6%）、経常利益は271億円（前期比92.4%）、当期純利益は145億円（前期比86.1%）と7月公表の予想を修正しております。

以 上